

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000572		
法人名	ハピレ株式会社		
事業所名	グループホームあすなろ(1階 すずらん)		
所在地	小樽市幸2丁目22番2号		
自己評価作成日	令和元年10月31日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000572-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、ゆったり」をモットーに家庭的な雰囲気での生活を提供し、家庭菜園や犬などの動物を飼い自然とのふれあいを大事にしています。敷地内には東屋を設け、日光浴や焼肉などを行ない、休憩や団欒の場として利用しています。あすなろ祭りや地域の幼稚園との交流会、音楽療法の導入や漬け物付け・餅つきや作品展などの行事を行ない生活の中に楽しみや季節感を取り込めるよう、職員で構成している委員会を中心に企画・実行しています。隣接するグループホームや小規模多機能の利用者様との交流も広く行なっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和2年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、小樽市郊外の高台にある住宅街に位置し、3階建て3ユニットのグループホームで、隣接して同法人が運営するグループホームと小規模多機能型居宅介護事業所がある。事業所行事や災害対策、運営推進会議などを3事業所合同で実施しており、長年の経験事例を共有しながら質の高いサービスに努めている。利用者は、近隣町内会と合同のイベント「幸運ご祭り」に参加したり、3事業所合同の行事「あすなろ祭り」には、地域住民や利用者家族も多数参加して、年中行事として定着を図りながら交流を深めている。事業所の前庭で菜園を楽しみ、野菜を収穫したり、セラピー犬がいる犬小屋に近隣の子供たちも訪れ、利用者との交流の場となっている。事業所の隣には町内会館があり、災害時の避難場所となっている。職員は、外部研修や内部研修に参加して、質の高いケアサービスに取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が考えた理念で有り、玄関やフロア内にも掲示している。それに基づいたフロア作りを行っている。毎日、申し送り前に唱和している。	事業所理念を玄関やフロアに掲示し、申し送り時等で唱和している。理念は地域密着型サービスの意義や事業所の役割を意識しながら職員全員で考えられており、日々のケアで家庭的な生活を目指している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通勤時など積極的に挨拶をするよう心掛けている。町内会での行事に参加している。事業所内の犬などを通じて地域の方々が気軽に訪れる事が出来る環境作りに努めている。	町内のお祭りや近隣の「幸りんご祭り」などに参加している。お祭りの神輿は、事業所の前庭に立ち寄り、利用者は交流しながら楽しんでいる。事業所合同行事「あすなろ祭り」には、おたる潮太鼓保存会によるイベントもあり、地域住民、利用者家族も多数参加し交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議など地域の方々に参加される場で介護の相談を受けたり、アドバイスを行っている。アポイントなしで訪問された方に対しても相談やアドバイスを行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催し、ホームの利用状況や活動報告、ヒアリング・事故報告書の内容などを報告や利用者様と同じ食事を体験して貰い、意見・感想を頂き現状の理解や今後のサービス向上に役立てている。	年6回開催し、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族などの参加を得て、運営状況や事故報告などを報告し、意見や助言を得て、運営に活かしている。議事録は利用者家族に送付し、会議内容を理解してもらっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法律的な事や解釈が分からない事などの相談しアドバイスを頂いている。生活支援課担当者や意見交換や相談・現況報告を密に行っている。包括支援センターと情報交換なども行っている。	市の担当者や地域包括支援センター職員とは、介護保険の更新や生活保護手続き等について相談し助言を得ている。また、事業所の空き状況を報告したり、市担当者から入居相談を受けるなど、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に『身体拘束ゼロ』に取り組んでいる。介護経験が少ない職員を優先的に外部研修を受講させている。外部の扉は19:30～翌6:00迄は施錠されているが、その時間以外は自由に入出入りが出来る。フロアの扉の鍵は8:30～17:30迄は出入りが自由で有る。	身体拘束委員会、虐待防止委員会を作り、定期的に職員研修会を実施して、職員全員が身体拘束をしないケアの実施に向けて取り組んでいる。夜間は、安全のために玄関の施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修へ参加し勉強する機会を設けている。委員会を中心に虐待の防止や早期発見に努めている。			

グループホームあすなる(1階 すずらん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて研修に参加している。成年後見人センターとの意見交換や相談などを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する前に十分に説明を行っている。看取りの方針やADLにに応じた福祉用具を準備させて頂く事、解約に該当する内容などを詳しく説明している。改定が有る場合は事前に文章にて報告し承諾書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談の窓口を設けている。外部への相談窓口も明確にしている。運営推進会議を通して、ご家族の代表からも意見や質問などを頂き、議事録として全家族様へ送付している。	意見箱は玄関の入り口に設置している。日々のケアで利用者との会話等から意見や要望を聞いたり、家族の来訪時や電話連絡の際に意見や意向を聞き、得られた情報は職員で共有して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所、フロア会議などの意見を管理者がまとめ、毎月の管理職会議で議論、結果を事業所にフィードバックしている。職員個人の意見や疑問については、管理者で判断がつかない場合など状況に応じて取締役により個人面談も実施している。	日々の業務を通して、管理者と職員は意見や相談ができる環境にあり、会議でも日常業務や支援方法について忌憚のない意見や要望を受け、運営に反映させている。個人面談は年1回実施しているが、職員は1年間の個人目標を設定しその結果を報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、取締役会前に全部門の月次収支を把握、勤務状況は勤務表にて確認している。これらをもとに待遇面では、職員に応じた給与の決定、及び処遇改善を毎月支給するとともに、業績や職責に応じた賞与を1年に2回支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に小樽グループホーム連絡協議会の副会長がおり、年3回の研修の立案・調整を行いながら職員の参加を促進している。外部との連携による研修以外に、グループ2社で委員会を実施し合同の研修を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同上、職員が地域の協議会の中核を担うことで同業者との横のつながりを構築し、同時に職員が外部と交流を図れるよう支援している。		

グループホームあすなる(1階 すずらん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用を開始する前に何回か面談や見学をして頂き、ご本人の困っている事や要望などを受け止めるように努めている。場合によっては宿泊体験をして頂き、安心の確保や不安を軽減できるように考慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度か面接や電話にて連絡を取り合い、ご家族が困っている事や要望などを受け止めるように努めている。入居後の生活や対応についても詳しく説明し安心して頂けるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、主治医などからの情報を収集し、またご本人の話を良く傾聴して分析を行い、必要としている支援を見極め対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を活かし、調理や掃除など日常生活での作業を共に行っている。感謝の言葉を常に忘れず伝えている。家庭的で話しやすい環境作りを心掛けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や電話にて日々の生活の様子や状態、ご本人の要望を報告して今後の支援方法を話し合い、共に支えて行けるよう努めている。また、ご家族に協力して頂き外泊・外出などの支援を行っている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力して頂きながら支援を行っている。馴染みの人が気軽に訪問できる環境作りに努めている。希望があれば馴染みの美・理容室など行き慣れている場所への外出支援を行っている。	馴染みのお店や理・美容院、思い出のある場所に出掛けたりと利用者の要望に沿った支援をしている。来訪者がある場合は、落ち着いてゆっくり過ごせるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、トラブルが起らない様に職員も一緒に会話に参加したり、座席を考慮するなどして、気持ちの良い関係作りに努めている。			

グループホームあすなる(1階 すずらん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、気軽に相談して下さいとお話している。ご家族からの相談を受ける事も有る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の表情や会話から希望や意向の把握ができるように努めている。また、ご本人からの意思伝達が困難な方はご家族に相談し意見やアドバイスを頂いている。	利用者の生活歴や日々のケアの中でのコミュニケーションから、利用者の思いや希望、意向を把握するように努めている。把握した意向は職員間で記録や会議で検討し、今後にかすように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時に情報収集を行い、入居した後も行動や会話の中から把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがゆっくりゆったりと過ごせるように、各々の願いや思いを優先している。また、その日の体調に合わせて出来る事を行って頂くようにしている。安心してご自分に合った生活が送れるよう現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ミーティングやモニタリングを行い、ケアを行っている職員の意見やアイデア等に加え、ご家族の意向も踏まえた上で現状に合った介護計画を作成している。	家族や利用者の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に、短期6か月、長期1年で見直して介護計画を作成し家族の承認を得ている。また、利用者の状況の変化に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を個別記録に残し、ケアプランへの実践・結果が分かる様に記載を行っている。気づきや変化などはフロー一日誌に記録して職員が常に情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族との関係を把握し、外出・外泊の支援を行っている。ご家族が遠方にいる方やご家庭の都合で支援ができない場合はご家族に代わって買い物や入院時の洗濯などのお世話をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源物回収や町内清掃などの町内行事への参加や音楽療法の取り入れ、地域の幼稚園との交流会やボランティアの受入れを行い、日々の生活を楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医への受診支援を行っている。新たに受診する時は、ご本人やご家族の希望や了解を頂き病院を決定している。通院が困難になった場合はご本人やご家族の了解を得て往診に変更している。	希望するかかりつけ医の受診継続を支援している。受診後の記録は同行した職員や家族からの報告を基に作成し、常に利用者の健康状態が把握できるようになっている。訪問診療は2週間に1回実施し、歯科の訪問診療も行われている。また、協力医とは24時間体制で、緊急時でも対応できるよう支援している。	

グループホームあすなる(1階 すずらん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か少しでも特変があった場合は24時間体制で職場内の看護職員に相談・報告を行い、処置対応して貰うまたは指示を貰い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず足を運び担当者への情報提供や話し合いを行っている。常に現状の把握に努め、ご家族や病院関係者と共に話し合い、今後の治療方針や退院時期を決定している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族から意向を書面にて確認している。その際に今後のリスクやホームにてできる事などを説明している。重度化した場合は早い段階で主治医を含め今後の支援を決めている。また段階的に再度意思確認を行っている。	入居時、利用者家族に重度化した場合や終末期のあり方について説明し、意向を書面で確認している。重度化した場合は、早い段階から利用者家族、主治医と話し合い、再度、意思確認を重ねながら希望に添えるよう支援している。指針を職員間で共有して、ターミナルケアを実践しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内外から講師を招き研修会を行っている。対処方法(マニュアル)や連絡表を作成して、フロア内の直ぐに見える場所に設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災における避難訓練を行っている。地域との協力体制もできており、緊急避難場所の提供を受ける事が可能となっている。また地域の方の受け入れや支援が可能である旨を運営推進会議を通じて伝えている。	年2回昼夜を想定した火災避難訓練を消防署立ち合いの上3事業所合同で実施している。高台にある地域のため、自然災害を想定した避難訓練も実施している。訓練については地域住民との協力体制がある。備蓄は、3日分以上を確保している。	隣接する同法人の事業所や地域町内会と協力体制を取り、定期的に火災による避難訓練と自然災害も想定した避難訓練を行っている。2018年の胆振東部地震でブラックアウトを経験し備蓄品の見直しや対応の見直しをしたが、冬季災害を想定した防寒対策の充実に取り組むよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーやプライドを損ねないように声掛けを行っている。排泄用品は使用者名が分からない様に配慮している。申し送りの際も個人名が分からないようにし、声の音量も考慮している。	尊厳やプライバシー保護、個人情報については母体法人の研修等で学んでいる。日々のケアでは言葉遣いに気をつけながら、特にトイレ誘導では耳元で声をかけるなど尊厳、プライバシーを守ることを常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中や入浴中、通院中などに一人ひとりの願いを引き出せるように働きかけている。わかり易く説明を行い自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで生活を送る事が出来るよう支援している。体操や食事に時間など決まり事は有るが、気分や体調に合わせ強制せず、ご本人の意思を尊重している。お手伝いについてもご本人の意思を尊重して行って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容を行っている。ご本人で出来る方はご自分でっており、季節やその日の気温に合わない時はさり気なくアドバイスをしている。ご本人での選択や準備が困難な方は要望をお聞きながら、職員と一緒に選んでいる。		

グループホームあすなる(1階 すずらん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を取り入れ、季節の変化を感じ楽しみながら食事ができるように取り組み、準備や後片付けも一緒に行う事で個々の力を活かしている。	外部委託した献立と食材を基に、利用者は能力に応じ職員と一緒に、下ごしらえから後片付けまで行い、食事を楽しんでいる。また、季節食や誕生食は利用者の希望を聞いて全ユニットで寿司パーティーを行ったり、焼肉をするなど楽しめる食事の支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事や水分量を把握し記録に残している。摂取する事が困難な方には、ご本人の好みに合わせるなどの工夫をして提供し、少しでも摂取できるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に行っている。忘れていた方には声掛けや誘導を行い、必要に応じて介助も行っている。義歯の方は就寝前に洗浄剤にて洗浄・殺菌を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況に合わせて、トイレ誘導を行いオムツは使用していない。失禁など必要に応じて介助を行っている。	個々の排泄パターンをチェック表で把握し、適時の誘導でトイレでの自立排泄に努めている。誘導時には、自尊心を損なわない配慮や声かけに心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳の提供や運動・歩行の促進を支援している。必要に応じて医師と相談して薬の服用・調整を行っている。排便状況を記録し、排便の有無を把握できるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する日はご本人の希望を優先し、週2回は入浴出来るようにしている。個々の好みに合わせお湯の温度調整したり、入浴剤を使用している。入浴を好まない方には声掛けを工夫し清潔保持ができるよう支援している。	週2回の入浴だが、希望に沿っていつでも入浴できるよう支援している。浴槽はひのき造りで、浴室の真ん中にあるため、2人で介助する場合は職員の負担が少なく支援が容易になる。必要によりシャワー浴、足浴の部分清拭での対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの以前からの生活リズムに合わせて、入眠や休息をして頂いている。夜は眠くなる迄起きていて頂き、良眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの受診記録や薬の説明書をいつでも確認できるようにしている。医師と相談して薬を粉砕するなど工夫して、ご本人が飲み易い方法を考慮している。服薬マニュアルを作成し、間違えがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や外食などや、他フロアへ訪問するなどして気分転換をして頂けるように支援している。花札やおセロ・麻雀なども一緒に行っている。体調に合わせてお手伝いをして頂いている。		

グループホームあすなろ(1階 すずらん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やお祭りなどの外出レクを計画したり、散歩や家庭菜園で野菜の収穫を行っている。散髪や買い物などの希望があれば個別での外出支援を行っている。ご家族も外出や外泊の支援を協力して下さっている。	外食に出かけたりお祭りに参加するなど、外出の支援を行っている。前庭や東屋、菜園などがあり、そこで利用者は散歩や日光欲、畑作業などをして外気を感じながら楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理可能な方は所持され、外出時などに欲しい物を購入され支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればフロアーに設置されている電話を使用し、時間などを考慮して支援している。手紙の投函を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日めくりカレンダーを貼り、月日が分かるようにしている。加湿器を設置してインフルエンザなどの感染防止に努めている。トイレは嫌な臭いがないように消臭剤を使用したり、汚物は新聞にくるんで捨てている。	食堂とリビングが一体となった広い共用空間は、温・湿度が管理され、過ごしやすい環境づくりに努めている。利用者と職員と一緒に作成した飾りつけや行事の写真などが飾られ、季節感あふれる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士でコミュニケーションが取り易いように座席を考慮している。ソファではテレビを鑑賞されたり、新聞・雑誌を読んだり自由にゆったりと過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々が使い慣れた家具や寝具、小物を自由に持ち込み使用されている。	居室は日差しが入り、清潔に保たれている。使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込み、家族写真や思い出の品も飾られ、利用者が居心地よく過ごせるような工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室や必要に応じてベッドに手摺りを設置し、安全に歩行や起き上がりができるように工夫している。トイレには表示を付けて迷わないようにしている。フロアー内はバリアフリーになっている。		